

(第7号様式の2)

事業報告書

1 事業名	課題解決プログラムを通して子どもの非認知能力を育成「なはミライアカデミー」
2 事業期間	2024年6月～2024年12月
3 事業内容	【実施スケジュールと内容】 6月チラシ作成・広報協力依頼 7月1日(月)～9月7日(土) 応募期間 那覇市内全小中学校(小学4年生～中学3年生)にチラシを配布し、応募を募った。 9月8日(日)・15日(日) 親子面談 実施場所：なは市民活動支援センター 全応募者(55名)の親子面談(30分間/人)を実施した。保護者も交えて学生本人の意思や興味関心を確認し、カリキュラムや目指すゴールの認識をあわせた。面談後、受講生21名を選抜した。 9月29日(日) 10:00～12:00/14:00～16:00 参加：21名 第1回講義「オリエンテーション・未来世界を想像してみよう！」 実施場所：なは市民活動支援センター 自己紹介をして、お互いを知るワークショップを通じて、メンバー同士で交流を図った。また、今後の課題解決をするために、まずは日本や世界でどんなことが起こっているのかを学んだ。(宇宙テクノロジーやクローン技術、自動運転、AIなど)座学のあと、AI技術を実際に体験した。 10月6日(日) 10:00～12:00/14:00～16:00 参加：20名 第2回講義「〇〇×テクノロジーで新しい道具を考えよう！」 実施場所：なは市民活動支援センター 世界で起こっているテクノロジーを使った課題解決の事例を知り、身の回りの課題を解決するサービス(アイデア)を〇〇×テクノロジーで考えた。

3 事業内容	10月13日（日）10:00～12:00/14:00～16:00 参加：19名 第3回講義「新しいアイデアを考えてみよう！」 実施場所：なは市民活動支援センター 自分の興味関心とテクノロジーをかけ合わせ、新しいサービスを構築する手法を学び、ワークショップ形式で実践した。
	10月20日（日）10:00～12:00/14:00～16:00 参加：20名 第4回講義「自分のプロジェクトを作ってみよう！」 実施場所：なは市民活動支援センター 1～3回のワークをもとに自分のプロジェクト/サービスを構築した。個別にメンタリングを行い、進捗に合わせたアドバイスを行った。
	10月27日（日）10:00～12:00/14:00～16:00 参加：13名（運動会と日程が被っていたため、特に午前クラスの欠席が多かった） 第5回講義「プロジェクトを進めよう！」 実施場所：なは市民活動支援センター 自分のプロジェクト/サービスを構築した。個別にメンタリングを行い、進捗に合わせたアドバイスを行った。
	11月3日（日）10:00～12:00/14:00～16:00 参加：18名 第6回講義「中間発表会」 実施場所：なは市民活動支援センター 現段階での進捗を発表した。発表内容に対してフィードバックを学生同士で行った。
	11月10日（日）10:00～12:00/14:00～16:00 参加：16名（運動会と日程が被っていたため、欠席が多かった） 第7回講義「プロジェクトを進めよう！②」 実施場所：なは市民活動支援センター 自分のプロジェクト/サービスを構築し、ユーザーインタビューの計画を行った。個別にメンタリングを行い、進捗に合わせたアドバイスを行った。

3 事業内容	11月17日（日）10:00～12:00/14:00～16:00 参加：19名 第8回講義「プロジェクトを進めよう！③」 実施場所：なは市民活動支援センター 自分のプロジェクト/サービスを構築した。個別にメンタリングを行い、進捗に合わせたアドバイスを行った。
	11月24日（日）10:00～12:00/14:00～16:00 参加：19名 第9回講義「伝える方法を考えよう！」 実施場所：なは市民活動支援センター 最終発表会のプレゼンに向けて、ワークショップ形式でプレゼンテーションの基礎を学んだ。
	12月1日（日）10:00～12:00/14:00～16:00 参加：20名 第10回講義「最終発表会に向けてプロジェクトを進めよう！」 実施場所：なは市民活動支援センター 最終発表会に向けて、個別でプロジェクトを進め、プレゼンテーションを作成した。
	12月8日（日）10:00～12:00/14:00～16:00 参加：20名 第11回講義「最終発表会に向けてプロジェクトを進めよう！②」 実施場所：なは市民活動支援センター 最終発表会に向けて、個別でプロジェクトを進め、プレゼンテーションを作成した。プレゼンテーションについてはメンターがフィードバックを行い、それをもとに改善をおこなった。
	12月14日（土）13:00～17:00 参加：21名 第12回講義「最終発表会（LEAP DAY）」 実施場所：那覇文化芸術劇場なは一と 小スタジオ コメンテーターとして那覇市副市長の古謝玄太氏、那覇市議会議員の外間ゆり氏をお招きし、保護者や関係者の前で自分のプロジェクトを発表した。最後はアカデミー全12回を振り返り、次のステップを保護者とともに話しあい、全体で共有した。

4 達成目標と達成度	達成目標（事業計画書と連携させる）	目標数値	実績値	達成度（%）
	・受講者数	・20名	・21名	・100%
	・外部へのインタビュー数	・5件	・105件以上	・100%
	・講義への満足度（保護者・受講生）	・90%以上	・93%	・100%
	・非認知能力変化率	・非認知能力が変化したというアンケートで変化したという回答が90%以上	・86%（保護者） ・90%（受講生）	・95%（保護者） ・100%（受講生）
	・最終成果報告会参加者数	・最終成果報告会参加者数50名	・延べ339人	・100%
	結果に至る理由、気づき、検証等 ・受講者数について、20名定員のところ22名（うち1名は個人的な事情により辞退）を選抜した。本人の意思を最重要視して選抜したため、定員を超えた選抜となった。 ・外部へのインタビュー数は、講座内でインタビューに行く時間を設けたため、受講生1人につき5人以上にインタビューした。（外部インタビューとは受講生が仮説を検証するために行った街頭インタビューや、有識者へのインタビューのことを指します。）有識者や専門家へのインタビューはスケジュールの関係上難しかった。（トライした学生もいたが、スケジュールが合わず、インタビューに至らなかった）3ヶ月という短い期間だったため、講義期間が長ければ有識者や専門家へのインタビューも実施できたかもしれない。			

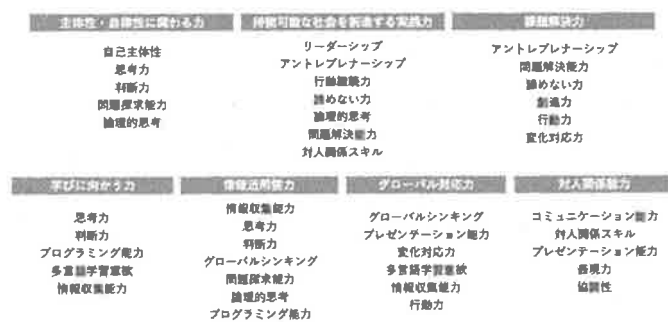
4 達成目標と 達成度

・非認知能力変化について、保護者アンケートで様々な声が得られた。「短期間なのに、子どもの成長を感じた。」「アカデミーの授業を通じ成長が見られた」「子供主体の学びの中で 子供の意欲を伸ばし自分の成長を感じることができたと子供が話をしてくれた」「子供がまずは発言・行動して一歩踏み出す事を学んだと言っていた。」など、子どもたちの成長を感じられるプログラムになった。プレゼンテーション能力や発想力、論理的思考などの非認知能力は短期間でも成果がでるが、諦めない力・思考力・創造力などの非認知能力は長期的に実践すると定着するので、次回は長期間（半年間）で実施したい。

※非認知能力とは、物事に対する考え方、取り組む姿勢、行動など、日常生活・社会活動において重要な影響を及ぼす能力のこと。（日本生涯学習総合研究所より）弊社では自立した人格を持つ人間として、他者と協働しながら、新しい価値を創造する力と定義し、7つの要素に分解して定義つけしている。（以下画像参照）

株式会社FROGS 非認知能力定義

“自立した人格を持つ人間として、他者と協働しながら、新しい価値を創造する力”



・保護者が講義の内容や様子を受講生に聞くことでしか知り得なかったもので、非認知能力育成の重要性や保護者の助言の仕方を理解しづらかったのではないかと考える。子どもの育成のみでは社会的なインパクトは限定的になってしまうので、今後は保護者や子どもたちの周りの大人に働きかける仕組みも必要だと気付いた。

5 事業の成果	事業を実施したことで得られた結果 ・対象者に及ぼした影響 アンケート結果から、本プログラムは、受講生に自信と論理的思考力を育むとともに、創造的なアイデア発想力と積極的な自己表現力を向上させるという成果をもたらした。また、保護者の視点からも、将来への前向きな姿勢や論理的思考力の向上が見られ、受講生が自立的に考え行動する力を身につけていることが確認された。 受講生のアンケートより ・自分が問題だと思う事を探して課題点などを見つけられるようになった。 ・普段の生活でアイデアを出す事を考えるようになりました。 ・アカデミーのプレゼン発表で大勢の前に立ったことで自信を持てるようになった ・日常的に問題を考えるようになった。 ・学級会などで自分の意見を発表することが多くなった。 ・人前で発表するのが楽しくなった ・自分の考えを短くわかりやすく伝えられるようになり、プレゼンテーションでも今までは緊張していたけど、今は緊張しなくなっていた ・今までは人前に出て発表するのが嫌だったけど、アカデミーを通して自信がついて、人前に出るのはまだ好きではないけど、前よりは平気になった。 ・考える力が強くなった ・積極的に意見を伝えるようになった！ 保護者のアンケートより ・物事を論理的に捉えて言い返すようになりました。 ・前向きな発言・考え方が見られた。 ・物事を多方面から捉えて会話する事が多くなった。 ・自分の考え、思っていることを話す機会が以前より増えた。 ・論理的思考が身に付いたと思います。 ・将来の夢への一歩を踏み出せたような経験を得て、自分に自信がついてチャレンジ精神や行動力がさらに培われたと思います。また化粧品開発の仕事へのモチベーションもアップして具体的にどんなことをしていけば目標達成に近づけるのか少し分かったようです。
---------	--

5 事業の成果	・連携機関、協力者に及ぼした影響 最終発表会は LEAP DAY 2024 という教育イベント内で実施した。そのことで、保護者以外の地域の大人や那覇市外・県外の方まで本プログラムの認知を広げることができた。また、コメンテーターとして那覇市副市長古謝玄太さんと那覇市議会議員外間ゆりさんにお越しいただいたことで、那覇市の取り組みについて受講生が学ぶ機会も作ることができ、今後受講生が那覇市の取り組みに自身の地域に目を向ける機会が増えるのではないかと。 また、保護者へのアンケートで今後の取組についての要望・アドバイス（期待）を伺ったところ、今後（次年度）も続けてほしい・また機会がチャレンジさせたい・もっと早く参加させたかったなどの声を多数いただき、満足度と同じく肯定的な意見が 93%を占めていた。 ・地域、コミュニティに及ぼした影響 本プログラムは、最終発表会を通じて小学生が課題解決力や創造力を発揮する姿を示し、地域社会に対して教育の重要性と可能性を強く印象付けた。発表会では「小学生がここまでできるのか」という驚きや感動を生み出し、地域住民や関係者が教育を軸とした人財育成の可能性を再認識する契機となった。 また、発表内容は地域課題に焦点を当てたものも多く、課題解決に向けたヒントを地域の大人たちに提供した。 さらに、最終発表会には保護者や学校関係者も参加し、生徒の成長を共有することで地域ぐるみでの協力体制を強化した。この発表会を通じて地域の大人が教育に参画する姿勢が生まれ、今後のまちづくり活動や教育支援への関与が期待される。
---------	--

6 次年度以降 の展開	小学校高学年から非認知能力やアントレプレナーシップを高めることは、今後の学習や視座、目標設定に大きな影響を与える。したがって、家庭の経済格差に左右されない人材育成を長期的に継続することが非常に重要である。最終発表会では「小学生がここまでできるのか」という従来のイメージを超える成果が見られた。そのため、今後はその成果をもって、那覇市を中心に地域の大人も巻き込んだ形で、より広く展開していきたいと考えている。 琉球 frogs では、これまで参加した学生が所属する学校で前例のない進学や就職を実現した例が多く報告されている。これらは frogs プログラムのカリキュラムによって、内発的動機（特定の学問を学びたいという自発的な欲求）が高められた成果である。 沖縄県全体では子どもの貧困が大きな課題となっているが、その解決策として、家庭の経済格差に左右されない教育資源の提供が求められている。特に那覇市においては、都市部と周辺地域の教育格差を埋めることが重要である。このため、プログラムの継続提供に加え、地域の大人を巻き込んで子どもたちの学びを地域ぐるみで支える仕組みを構築することが大切である。 本事業では、企業版ふるさと納税や休眠預金、企業協賛などを活用し、受講者が負担をせずに参加できる仕組みを提案する。そして、短期間ではなく 10 年以上の長期視点で取り組み、那覇市を中心に地域社会と協働しながら、子どもたちが貧困から抜け出し、将来に向けたスキルを身につける場を提供していくことが理想的だ。これにより、那覇市をはじめとする地域全体で子どもたちの成長を支えつつ、より持続可能で効果的な人材育成の基盤を築くことを目指したい。
------------------------	--

7 実施した事業全体への自己評価とその理由	①自己評価(5段階評価) <table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td>と と も 良 か っ た</td> <td>良 か っ た</td> <td>ま あ ま あ 良 か っ た</td> <td>少 し 良 か っ た</td> <td>全 く 良 く な か っ た</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> </table> 1 課題設定は良かったか ☒ 5 2 解決策として良い手法だったか ☒ 5 3 自団体の実施体制は良かったか ☒ 5 4 他団体との協働体制は良かったか ☒ 4 5 対象者への周知は良かったか ☒ 5 ②上記の結果となった理由について 他団体との協働体制はもっと築けたのではないかと考えたから。最終発表会は多くの方にお越しいただいたが、地域の方々を講座の途中で巻き込み、受講生のプロジェクトをサポートする体制を築けたのではないと思う。		と と も 良 か っ た	良 か っ た	ま あ ま あ 良 か っ た	少 し 良 か っ た	全 く 良 く な か っ た		5	4	3	2	1
	と と も 良 か っ た	良 か っ た	ま あ ま あ 良 か っ た	少 し 良 か っ た	全 く 良 く な か っ た								
	5	4	3	2	1								
8 市への要望・欲しい支援等	なは市民活動支援事業に係る下記の項目に対して (①事業説明会 ②個別相談 ③募集期間 ④広報支援 ⑤オープンデータ 等) 地域を巻き込むという点で、もっと市のリソースを活用したかったの で、<u>定期的に面談</u>をして進捗確認やその進捗に合った連携先の提案な どをしていただけると大変ありがたいです。												